

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 34-1

通号 第 90 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

親子探鳥会



◇ 5年間の記録 ◇

毎年6月の第2土曜日、浦和博物館では親子探鳥会を実施しています。

講師から双眼鏡の使い方などの基本的な話を聞いた後、博物館近隣の見沼たんぼを散策しながら鳥を探します。要所で聞く話は鳥のことだけでなく、人や鳥を取り巻く身近な自然や環境のことまでを丁寧に分かりやすく解説してもらいます。

最近5年間に見られた鳥は右の表のとおりです。この季節、愛らしいカルガモの親子が見沼のたんぼや芝川で見ることができます。(S)



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
カワウ	○		○	○	○
ゴイサギ		○		○	
ダイサギ					○
アオサギ					○
カルガモ	○	○	○	○	○
ホシハジロ		○			
オオタカ				○	
コジュケイ	○				
キジ		○	○	○	
コチドリ		○		○	○
コアジサシ				○	
キジバト	○	○	○	○	○
カッコウ	○	○	○		○
カワセミ		○	○		○
コゲラ	○		○		
ヒバリ	○	○	○	○	○
ツバメ	○	○	○	○	○
ハクセキレイ	○		○	○	
ヒヨドリ	○	○	○	○	○
モズ	○				
ウグイス	○				○
オオヨシキリ	○	○	○	○	
セッカ				○	
シジュウカラ	○	○	○	○	○
メジロ			○		
ホオジロ	○		○	○	○
カワラヒワ	○	○	○	○	
スズメ	○	○	○	○	○
ムクドリ	○	○	○	○	○
オナガ	○	○	○		○
ハシボソガラス	○	○	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○	○	○
合計	21	19	21	21	19

■ 目 次 ■

ヤツ（谷津）の変貌とヤマトイモ（下）	2
行事カレンダー・日誌抄	4



ヤツ(谷津)の変貌と

ヤマトイモ(大和芋)栽培(下)

見沼の景観

博物館の前の北宿通りを東へ進むと、目の前に視界が開けてきます。ここに広がる田園地帯は古くから「見沼たんぼ」と呼ばれ、その広さは約10km、1,260ヘクタールに及んでいます。中央には芝川が北から南へと流れています。この芝川を挟むようにして上尾市瓦葺で分かれた見沼代用水の西縁用水、東縁用水が台地に沿って流れています。

江戸時代の中ばに井澤弥惣兵衛がそれまであった池沼を干拓して用水を掘り、新田開発を成し遂げてから米の一大生産地となりました。しかし、昭和45年から稲作調整が行われ、水田の占める割合は年々減少し、現在は、主に植木畑、野菜畑に変わっています。

代用水の台地側は雑木林、竹林、畑となっていて、低地側は農地となっています。雑木林は斜面林ともいわれ、豊かな自然を形成していましたが、現在では、氷川女体神社社叢、見沼通船堀公園、東縁の国昌寺から鷲神社にかけての一带、見沼自然公園周辺などに緑が残っている程度です。

また、水田も武蔵野線に隣接する区域や、鷲神社の東側にあたる加田屋川をはさんだ片柳と南部領辻の区域などにわずかに残るばかりです。しかし、芝川上流に位置する加田屋川を北へさかのぼり、県道新須賀さいたま線を越えた先の加田屋新田では、昔ながらの田んぼが西福寺あたりまで一望できます。数少ない昔の面影が残る見沼たんぼの原風景といえます。

昭和40年頃まで、見沼代用水西縁では、年に数回用水を使う人たちがモクガリ(藻刈り)(註1)を行い、用水の流れの中で一箇所にたまった底の土を除いたり、用水の周りの草刈も行っていました。

代用水東縁では、ほぼ昭和初期までのことと思われるのですが、代用水の水底に上流から流れてきた砂が堆積しました。その砂をセメントと混ぜコンクリートの材料として使用していました。当時この地区では用水の清掃と砂の採取のため、藻刈り

を行っていたわけです。

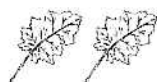
昭和30年代頃には、代用水で子どもが大人に泳ぎを習っている光景もみられました。水辺は農具などの洗い場としても使われました。また、瓶(びん)どう(註2)に炒った糠を入れて、水底に沈め、川魚を捕ったものでした。夏になると源氏ボタルを始めとするボタルの群れが舞い、幻想的な世界をかもし出していました。秋には子供も参加して、イナゴ捕りが行われ、イナゴは人の食用だけでなく、鶏のえさにもなりました。

大和芋

ヤマトイモは、別名イチョウイモとも呼ばれ、埼玉、千葉、群馬で生産されています。最近では、高級野菜の部類にも入っています。ヤマノイモ類は形状によって、扁平形をイチョウイモの名称で分類されています。

江戸時代前期の農学者である宮崎安貞が著した「農業全書」の中に「山のいも、是根を食する物の中にて、取分上品なり。」とあります。また福羽逸人著作、明治農書全集の「蔬菜栽培法」では次のように述べています。「やまのいもは本邦各地の山野に自生するもの少なからずして、往昔よりこれを食用となす者多し。園圃にこれを植栽して蔬菜となすときは、家山薬すなわち「ながいも」とはいうなり。やまのいもの一種にして、仏掌のごとし。また、銀杏いもあるいは扇子いもというものあり、その形状長大ならずして公孫樹葉もしくは扇子のごとし。」このように人々に珍重されています。

イチョウイモは、時を経て関東地方では「ヤマトイモ」の別名で埼玉県で栽培が始まり、昭和26年頃には東京市場の出荷量のほとんどを占めていたといわれ、埼玉県で栽培技術も研究、確立され、近県各地に普及したとも考えられています。また、利根川流域は種イモ生産の適地として発展したこともあり、種イモの販売とともに新興産地へ栽培法が伝えられたもようである。現在は埼玉県、千葉県、神奈川県、群馬県、茨城県が産地となっています。



いも類としては市場で最も高価に取引され、高級野菜として価格も安定しています。高価に取引されるのは栄養価が高く、和菓子や海産物の加工原料、また薬用原料にもなり、利用範囲が広いことによると思われます。

大和芋の栽培法

緑区三室の飯野家では、50年ほど前から大和芋の栽培を始め、昭和60年頃まで神田や築地市場へ出荷されてきました。現在も畑作転作後の見沼たんぼで栽培を続け、大和芋栽培の技術を継承されています。ここで飯野良二氏にご教示いただいた大和芋栽培について紹介します。

4月中旬

畑の土壌を消毒し、線虫を予防するとともに土壌を薫蒸します。トラクターで畑のガス抜きを行ってから、機械でサクを作ります。その後、いけていた種イモを掘り出し、コンテナに入れます。種イモは12月～1月の間に児玉、大里郡の方から取り寄せます。

4月下旬 ▶

種イモを植えます。種イモは傷みのない、病気の少ないものをより分け、30cm位の深さで並べて斜めに置き、その上に石灰をかけてから、土をかぶせ、さらに肥料をかけます。



5月下旬～11月下旬 ▲

大和芋のつるが伸びて成長します。その後、つるは枯れた状態になり、刈りとられます。



11月下旬 ▲

トラクターでサクを揺すり地面を柔らかくした後、手で掘った大和芋をコンテナに入れ、収穫します。

12月上旬

法人向けと個人向けに、それぞれダンボール箱に大和芋を詰め、歳暮用に荷作りを行います。法人向けのダンボールにはのし紙を入れます。

大和芋の料理

一般には大和芋の皮をむいてすりおろして食べます。皮をむいて四角に切り、海苔ではさみ、油で揚げる料理もあります。

終わりに

さいたま市の東南部では、宅地化により谷津が著しく変貌し、シマツパタケの大和芋やオカツパタケの薩摩芋に代表される伝統農業が衰退しました。

農業を取り巻く環境が大きく変わっているおり、畑転作後の見沼たんぼで、大和芋栽培の技術が継承されていることは、たいへん貴重なことですが、さらに、今後のこの地域の農業のあり方に少しでも問いかけになればよいと思っています。

(註1) モクガリはモクガリボウチョウを使って、水路に生えたカミソリモクを刈りとることです。

(註2) 小魚を捕るためのガラス製の道具で、筥(うけ)とも呼ばれます。

引用文献

浦和市史 民俗編 1980年 3月

野菜園芸大百科13 社団法人農山漁村文化協会
1989年

(A)

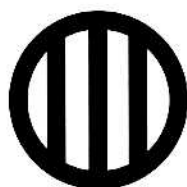


行事カレンダー 開館時間 9時～16時30分

☆さいたま市・岩槻市合併記念事業
特別展「戦国時代のさいたま
—城と館からさぐる—」(第2会場)

会期 10月8日(土)から11月27日(日)まで

内容 市内の中小規模の城や館を出土品などで紹介します。なお、今展示はさいたま市立博物館(大宮区高鼻町2丁目・第1会場)との共同開催です。



☆特別展関連講演会「戦国時代の岩槻城」

会期 10月30日(日) 14時から15時30分まで

講師: 大村 進氏
(さいたま市文化財保護審議会委員)



申し込み方法など詳しくは当館まで

☆特別展展示解説

会期 11月3日(木・祝)
15時から15時30分まで



☆企画展「ちょっと昔のくらしの道具」

会期 12月2日(金)から平成18年3月12日(日)まで
内容 大人も懐かしい昭和の道具の数々…
(小学生向け展示)



☆定例探鳥会〈毎月第3日曜日開催〉

(雨天中止)

会期 10月16日(日)・11月20日(日)・12月18日(日)
1月15日(日)・2月19日(日)・3月19日(日)
9時から12時(9時に当館集合)

日誌抄 (平成17年4月から8月まで)

4/1(金) 資料寄贈1件
4/5(火) 団体見学1団体
4/17(日) 定例探鳥会
4/26(火) 第1回博物館協議会(市立博物館)
5/8(日) 企画展「どうぶつさがし—館収蔵品・寄託品より—」終了
5/9(火)～12(木) 展示替による休館(企画展→常設展)
5/13(金) 常設展開催
5/15(日) 定例探鳥会
5/17(火) 資料貸出1件
5/19(木) 三室小6年見学
6/10(金) 三室小2年見学
6/11(土) 親子探鳥会
6/19(日) 定例探鳥会
6/21(火) 海老沼小3年体験学習
6/24(金) 資料貸出1件
7/3(日) 常設展終了
7/4(月)～14(木) 館内燻蒸作業および展示替による休館(常設展→夏休み企画展)

7/14(木) 資料寄贈1件
7/15(金) 企画展「夏休み子ども博物館」開催
7/17(日) 定例探鳥会
7/17(日)～30(土) 博物館実習生の受け入れ(7名)
7/21(木)～24(日) 昔のあそび(体験教室)
7/23(土) おもちゃ作り(体験教室)
7/24(日) クイズ大会(体験教室)
7/26(火)～28(木) 中学生職場体験(本太中1年)
8/3(水) 資料寄贈1件
8/4(木) 第2回博物館協議会(市立博物館)
8/19(金) 団体見学1団体
8/21(日) 定例探鳥会

さいたま市立浦和博物館館報 あかんさす No.90
編集・発行 さいたま市立浦和博物館
〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地
TEL・FAX 048-874-3960
発行日 平成17年9月30日
ホームページ <http://www.city.saitama.jp>
E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

